



さつまいも・里芋収穫 (10/14) デイセンターあゆみの家

あゆみの家

No. 126号

ストップ「コロナ・ハラスメント」

二〇一九年十二月に中国の武漢市で「新型コロナウイルス」の初めての患者が報告されて一年が経ちました。本年十二月十一日現在、世界全体の感染者数が七千万人を超えたことが報じられています(十二月十二日岐阜新聞)。これは日本の人口一億二七〇万人のうち六五〇〇万人を占める女性の総人口を上回る数です。

感染拡大防止に向けて、外出自粛やマスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保など、私たちの生活を取り巻く状況もそれ以前とは大きく変わりました。

この新型コロナウイルスへの恐怖心、誤解や偏見により人を排除したり差別したとするのは「コロナ・ハラスメント」と呼ばれます。「コロナ・ハラスメント」は重大な人権侵害です。感染者や医療従事者、そのご家族などの関係者が不当な差別や誹謗中傷を受けることがないように、「ストップ「コロナ・ハラスメント」宣言」が九月一日に岐阜県から出されています。

三か月後の十一月五日には『ストップ「コロナ・ハラスメント」アクションプラン』が発表され、対策の徹底が図られています。このプランでは、「オール岐阜での対策」、「各分野における対策」の二つを柱とし、前者は(一)正しい知識で正しく恐れる広報 (二)法務局・弁護士との連携、後者は(一)WEB・SNS対策 (二)事業所対策 (三)学校対策、(四)外国人皇民への配慮 が掲げられています。

感染者自身に対する「思いやり」の気持ち、感染者が発生した団体に対する「理解」や「励まし」、医療現場で重症者等の診療に日夜奮闘されている医療従事者の方々、高齢者や障害者の介護、生活支援に従事されているスタッフの方々に対する「感謝」の気持ちなど、温かい心と眼差しこそ私たち一人ひとりが忘れることがないようにつとめていきます。

クリスマスの主人公



理事 徳弘浩隆

「お誕生日会に呼ばれました。小さなプレゼントを準備して、行ってみると、だれもプレゼントを持ってきていません。そして、楽しいパーティーは始まりましたが、肝心の主役がなかなか現れません。おいしい食事をたくさんいただきながら、主

役の人は忙しいのかなと思いつつも、そのうちケーキも切って配られ、みんなでおいしくいただきました。少し大騒ぎすぎの人もいました。そうしているうちに片づけが始まり、パーティーは終わってしまいました。主役は、お誕生日の人は来ないうちに。。。」

これは、私の頭の中をぐるぐる回っている出来事で、事実ではありません。しかし、よく考えてみてください。私たちが過ごしているクリスマスは、ちょうどこういうことに思えてなりません。

教会でクリスマスのポスターを作ろうと思ってインターネットを検索しても、飾りつけをしようと思ってお店を歩いてみても、肝心の「主人公」は、なかなか見つかりません。クリスマスは、イエス様のことなんです。

イエス様が、神様の子が地上にいられたのに、それをお祝

いするためのクリスマスなのに、イエス様以外の人形や飾り、そしてケーキにクリスマスツリー、あちこちでLEDでライトアップ。この主人公にプレゼントをあげるのではなくて、おいしいものを食べて、ケーキもいただいて、楽しんでお祝い？それはいけませんね。

教会では、入り口の外の壁に、イエス様がお生まれになった時の風景を描いたポスターを貼ってみました。本当は大きな人形を飾りたかったのですが、日本ではあまり簡単に手に入りません。サンタさんもツリーも大切ですが、イエス様のお生まれになったことが一番大切です。どうぞ、大垣教会の壁を見に行ってみてください。

そして、神様からこんなに大きなプレゼントをもらったのだから、私たちも神様にお返ししましょう。それは、お祈りすること、そして、私の周りの人にやさしくすること。

そんなクリスマスと一緒に、過ごしてみませんか？もちろん、楽しいパーティーもしましょう。みんなと仲良く過ごしましょう。でも、イエス様のことを一番大切にすることをクリスマス、一緒に過ごしましょう。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」 ヨハネによる福音書三章一六節

コロナ禍でも楽しみを

きずな2006

生活支援員

杉田

佳美

新型コロナウイルスのニュースが耳慣れてきた今日この頃。ニュースでは毎日「今日は〇〇人の感染者で過去最高人数」「重症者の増加」などの暗い話題ばかりです。

そんな中、ホームの利用者さんたちはマスクを着けることにもすっかり慣れてきたようです。女性の方は特にマスクのおしゃれを楽しんでおり、毎日の洋服に合わせていろいろな柄のマスクを選んでいます。ホームに帰ると洗濯ネットに入れて洗い、とても大事にされています。日中活動の場で「今日もかわいいマスクだね」と言われることも嬉しいようです。

青柳ホームの閉所

今年の九月末、十八年という長い年月を過ごした青柳ホームが閉所となりました。きずな全体の職員不足、利



用者のみなさんの重度化・高齢化などの問題もあり、検討を続けてきました。

いまままでゴミ当番や清掃活動などの地域の活動に参加して、近隣の皆さんとの触れ合いも大事にしてきました。週末には利用者さんと散歩しながら自動販売機のジュースを買いに行くのですが、ご近所の方に会うと「こんにちは」と笑顔で声をかけてくださることもあります。引っ越しの後には、利用者さんと一緒に近隣の家を周り、最後のご挨拶を済ませました。

今回の青柳ホームの閉所にもなって、一〇月から四つのホームで新メンバーでの生活がスタートしています。利用者さんにとって新しいホームで過ごすことは戸惑われるのではないかと心配していましたが、皆さんすぐに新しい生活に慣れてみえました。週末の自動販売機までの散歩もコンビニまでの散歩に変わり、広い部屋で過ごすことも快適な様子です。また新たなホームで地域とのつながりを大切にしながら、利用者さんが楽しく暮らしていけることを願っています。



<青柳ホーム清掃活動>

研修での学び

おおぞら 所長 伊藤佐知子

あゆみの家では、すべての事業所の職員合同で年二回研修を行っています。今年度の全体研修テーマは『支援者としての基礎に立ち返る』変化を求められる今だからこそ私たちが大切にしたいこと』です。月刊サポートの特集記事「フォー・ナイス・ビギナー」を利用して、社会人として、そして福祉に携わる者として求められる仕事の基本について考える機会となりました。

また、おおぞらのヘルパーとして働く中で、「支援者として大切にしていること」も意見交換を行いました。一部を紹介させていただきます。

- ・ 利用者ができることは、小さなことでも取り組んでもらう。またその機会を提供する。
- ・ 利用者の思いや、こだわり等を理解するように努める。その中で利用者と一緒に折り合いを見つけられるように話し合いをしていく。
- ・ 日々の出来事や目の前で起こっていることなど、言葉やジェスチャーで表現される利用者の話をきちんと聞く。
- ・ 利用者の力を信じる。利用者の持っている力を発揮

できる工夫を行う。

どのような気持ちで取り組んでいるのかをお互いに確認することで良い刺激を受けました。おおぞらとして共通認識をもって取り組んでいけるようにしていきたいと思えます。

次に、「支援の中で困っていること」も意見交換を行いました。利用者とのコミュニケーションに関することが多くあがってきたので、第二回のおおぞらの研修テーマは、「コミュニケーションの基本」利用者の気持ちを考える」としました。

利用者の気持ちに寄り添うためには、もっと利用者のことを知る必要があります。障害特性の学びやアシメントを丁寧に行うことから始めていきます。そして、一人ひとりにあったコミュニケーションについて考えていきます。私たちから利用者への発信の仕方ももっと工夫が必要であることも気づきました。このような取り組みをおおぞらヘルパー全員でチームとして取り組んでいき、実践と検証を重ねていきたいと思っています。



温かい食事提供の実現

管理栄養士 古藤 孝子

広報誌一二三号でご報告致しましたが、第二あゆみの家では、昨年の共同募金会の補助金で温蔵庫を購入しました。

これまでは、温かく食べていただきたい主食は特に、盛り付けるタイミングをできるだけ

遅い時間にして工夫はしていましたが、何十人分もの食事の盛り付けと刻み食を作り、それを喫食時間の三分前には完成させるため、どうしても冷めることは避けられませんでした。冬場は特に短時間で冷たくなってしまい、せっかく身体を温めてもらおうと、温料理の献立をたてても、申し訳なく思っていました。

そこで今回、共同募金の配分が決まり、ぜひ温冷配膳車を導入したいとの声が挙がり、それに伴ういろいろな作業工程の見直し、活用方法、人員・全体の効率等について、関係者間で協議を重ねた結果、温冷配膳車よりも温蔵庫の方が、今の第二あゆみの家で有効的に利用できるのではないかと結論に至りました。

いよいよ導入。厨房内ではなく、食堂の一角に大きな温蔵庫を設置しましたので、利用者みなさんの反応が心配されましたが、特に大きな混乱もなく受け入れてい



ただけました。

食事を摂る時間は全員一斉ではなく、利用者さんによって多少時間差があるため、一番最後に食べるHさんの食事はこれまではレンジで温めていました。しかし、温蔵庫が入ってまもなく、ある利用者さんから、「Hさんのごはん冷たくなるから、あそこ（温蔵庫）に入れてあげて」とのお心遣いをいただき、それからは毎日温蔵庫に入れておくようになりました。

言葉で表現されない利用者さんも多いですが、温かい食事を召し上がっておられる表情は柔らかく感じられます。入所（第二あゆみの家）のみなさんにも、家庭や外食のように、温かい食事は温かくいただくことが、遅ればせながら実現したことを、私たち職員も喜ばしく思っております。

だんだん寒くなってきましたが、温かい食事でも心も身体も温めていただけたらと思います。

まだ細かな課題はあります。これで満足せず、ゆくゆくは温冷配膳車で食事が実現できることを願います。



温蔵庫

新しい取り組み

「リモート」での合同職員研修会

研修委員長 橋本 聖子

あゆみの家では、毎年夏と秋の二回「合同職員研修会」を行っています。全事業所の職員が集まり、テーマに沿って学びを深めること、また日ごろ顔を合わせることができない他事業所のスタッフと一緒に語り合うことができる、特別な機会です。

今年度は第五六回、五七回の研修会となりますが、新型コロナウイルス感染症の影響で、感染予防に重点を置いて開催方法として初めて、各事業所に分かれて、リモートでの合同職員研修会を行いました。ぐっどらんどや林町デイセンタ―は大垣から、垂井町内の事業所も各フロア・事務所に分かれて参加する形にしました。プロジェクターなどを使用した大きな画面を見ながら、そして職員同士もディスカッション（距離）を保ちながらの研修となりました。

今年度の年間テーマは「支援者としての基礎に立ち返る」です。

続くコロナ禍のため、利用者のみなさんにも活動の制限や、外出の自粛の協力をお願いすることになり、私たち支援者も今までのように支援ができない苦しみをずっと感じてきました。事業所の枠を超えて、職員が大勢集まる会議や研修も思うようにできない状況で、「変化を求められる今だからこそ、支援者として大切にしたいこと」を再確認し、「各事業所での実践での気づきを法人職員みんなで共有する」ことをサブテーマに研修を開催しました。



デイセンターあゆみの家 研修会



田口総合施設長の講評（ズームで）

た。事務所もあわせて「九事業所」の発表は事前録画・録音を利用して各会場で上映し、他の事業所の取り組みから気づいたことなどを話し合いました。複数の事業所があるあゆみの家だからこそ、いろいろな視点で「支援者としての基礎」について学ぶことができる、充実した研修となりました。

今回のリモートでの研修については、うまくいくのか不安もありましたが、変則勤務で研修になかなか参加することができない生活支援の事業所では、開催日を変更したり、複数回に分けて研修を行う工夫もでき、多くの職員が参加できるといって、良い気づきもありました。

まだまだ大勢で集まれる機会を設けることは先になりそうです。支援者として大切なことは変わらないまま、しかし変化に柔軟に対応できる職員集団でありたいと思います。

出来事ピックアップ



林町デイセンター（9/10）
におい当てクイズ



ぐっどらんど（9/14）ぐっど祭
キッチンカーでお弁当を買う



ぐっどらんど（9/30）
音楽療法



第二あゆみの家（10/3）
カラオケ大会



西濃障がい者就業・生活支援センター（10/31）
交流会



きずな2006（11/14）
あゆみホーム垂直避難訓練

行事予定

- 12/19(土) クリスマス祝会
- 12/25(金) クリスマス礼拝
(オンラインにて職員対象)

最近のできごと (8/21~10/31)

- 8/27(木) 林町カフェ (林町デイセンター)
- 8/29(土) 流しそうめん (第二あゆみの家)
- 8/29(土) 魚掴み&BBQ (林町デイセンター)
- 9/14(月) ぐっど祭 (ぐっどらんど)
- 9/19(土) 魚掴み&BBQ (林町デイセンター)
- 9/19(土) かき氷を食べよう (第二あゆみの家)
- 10/ 1(木) 養老町役場販売
(ぐっどらんど グッディG)
- 10/ 3(土) プチ運動会 (ぐっどらんど ドリームG)
- 10/ 3(土) カラオケ大会 (第二あゆみの家)
- 10/ 6(火) テイクアウト昼食会
(林町デイセンター ポップコーンG)
- 10/14(水) さつまいも、里芋収穫
(デイセンターあゆみの家)
- 10/23(金) 手作喫茶 (ぐっどらんど ホープG)
- 10/23(金) 夜間避難訓練 (第二あゆみの家)
- 10/28(水) ポブラグループ バーベキュー
(第二あゆみの家)
- 10/29(木) ハロウィンパーティ (林町デイセンター)
- 10/30(金) おいしいスイーツを自分で選んで食べよう
(ぐっどらんど グッディG)
- 10/31(土) 交流会 (就・生センター)

ふれあい交流、ボランティア

(9/1~11/30)

新型コロナウイルス感染防止対策のため、しばらくの間、受け入れを停止させていただいております。

デイセンターあゆみの家の利用者の橋本幸恵さんが岐阜県障がい者ふれあい福祉フェアで岐阜県知事賞を受賞しました!

題「線路 (SENRO)」

日頃描きためた線路を切り取り、立体作品に仕上げました。線路の上をはしる電車をイメージしながら描かれている作品です。



編集後記

岐阜県大垣市にあるキリスト教会のさまざまな教派の信徒の方々の集まりである大垣市内キリスト教信徒会が、今年50周年を迎え、つい最近記念誌が発行されました。その記念誌の記事を読んで、信徒会の初期の頃、献金はほとんど「あゆみの家」のために捧げられていたことを知りました。「あゆみの家」は本当に多くの方々のご協力をいただいていたことを、改めて知ることができ、感謝でした。

クリスマスの時期がやってきました。あわただしい日々ですが、神さまの愛を覚えて感謝したいと思います。利用者みなさんをはじめ、すべての方々に神さまの祝福が豊かにありますように! (伊藤)

編集：社会福祉法人あゆみの家

〒503-2123 岐阜県不破郡垂井町栗原2066-2

Tel 0584-22-4333 (代) FAX 0584-22-4344

URL <https://ayumi-ie.com/>

E-mail ay464h@he.mirai.ne.jp

グループホームのご案内

- あゆみホーム 大垣市三塚町
- めぐみホーム 不破郡垂井町表佐
- 東神田ホーム 不破郡垂井町東神田
- 別荘ホーム 養老郡養老町橋爪
- 養老公園ホーム 養老郡養老町養老
- 綾野ホーム 大垣市綾野町
- 表佐ホーム 不破郡垂井町表佐
- 習南ホーム 不破郡垂井町表佐
- あいかわホーム 不破郡垂井町

林町デイセンター 〒503-0015 岐阜県大垣市林町7丁目142-1 / TEL 0584-47-9920